

糖尿病治療や 予防策を説明

県医師会公開講座

県医師会の糖尿病県民公開講座が15日、岡山市中区古京町の三木記念ホールであり、専門医らが最新の糖尿病治療や予防策を説明した。

医療関係者や市民約300人が参加。国立がん研究センター中央病院（東京）総合内科

の大橋健科長が「糖尿病とがんの危険な関係」と題して特別講演し、糖尿病患者はがんになるリスクが1・2倍になるとの研究結果を紹介。膵臓すいぞうがんで血

糖コントロールが悪化するリスク要因として食事・肥満や運動不足、喫煙などを挙げ、生活習慣の改善が予防に有効と指摘。「具体的に達成可能な目標を立てて取り組んで」とアドバイスした。



糖尿病とがんの関係を説明する大橋科長

岡山大病院新医療研究開発センターの四方賢一教授は最新の糖尿病治療について講演。健康寿命を延ばすための運動の紹介もあった。（阿部光希）

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。